

2015 年度 在宅医療助成（前期）テーマ指定公募②

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会への助成」

テーマ：【地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会】

申請者：大阪医科大学 看護学部 横山 浩誉

提出年月日：2016 年 9 月 30 日

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2015 年度在宅医療助成（前期）指定公募②

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会への助成」

## 【報告書】

### <諸言・目的等>

本研修会を開催されることで、期待される効果・波及効果として、各地域における在宅医療推進のため医師や看護師等の多職種が協働し、研修することで地域包括ケアに関する共通認識を持つことが可能となることが期待できる。また、本研修会での内容を各地域に普及することで、国内での波及効果も期待できると考えられ、開催された。

本研修会は、「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会とし、2016年8月28日（日）に大阪医科大学看護学部北キャンパス講堂により、開催された。

### <シンポジスト>

本研修会の目的でもある「多職種」として、医師として、岡山県新見医師会長 太田隆正先生、認知症専門の神経内科医として、京都大学医学研究科人間健康科学系専攻在宅医療看護学分野 教授 木下彩栄先生、サルコペニア・フレイルの評価を専門とされている理学療法士として、筑波大学 大学院人間総合科学研究科 准教授 山田実先生、健康づくりの実践として地域で活動されている健康運動指導士として、スポーツトレーナー協会認定パーソナルトレーナー 藤本幸輝先生、介護支援専門員でもある看護師として地域で活動されている、社会医療法人 祐生会 グループホームみどりヶ丘 管理者 迫田薫先生、し地域で支える心不全患者へのリハビリを専門としている理学療法士として、大阪医科大学 医学部 公衆衛生学教室 助教 神谷訓康先生、認知症および糖尿病を専門とし、臨床の際には訪問看護師として活動していた、大阪医科大学 看護学部 准教授 久保田正和先生とした。なお、太田隆正先生の講演においては、ICT を利用した遠隔での講演として行った（会場には、準備やトラブルのため岡山県新見医師会の山下主任が待機してくれた）。

### <参加状況>

当日は、約 50 名（途中で退出した参加者の方がいたため）の参加者であった。主な参加者としては、医療機関で勤務する看護師および理学療法士、作業療法士。在宅で活動している介護支援専門員や訪問看護師、介護福祉士等であった。また、高槻市内で活動する「認知症を地域で支える会」の会員の方（一般市民）やその家族の方、また本学学生まで様々であった。

### <まとめ>

全体の総括としては、内容自体非常に良かったと思われる。ただ、準備期間が短かったことやポスターのテーマが少し難しいような印象を与えたことが、参加者が少なかつた理由とも考えられる。ただ、本研修会の目的であった今後の地域での活動に役立つという意味では非常に価値のある研修会であったことが示唆された。今後も機会があればお子いたいと考える。なお、本研修会は「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」研修会であった。

以上（文責：大阪医科大学 看護学部 横山浩誉）

## 【感想】

本研修会では、終了後に参加者にアンケートを記載して頂いた。その中で幾つかの自由記載を紹介したいと思う。

50 歳代女性（看護師：経験年数 34 年）

「サルコペニア・フレイルおよび在宅医療推進のための健康づくりの講演は、普段なかなか聞けない話であったため、今後の在宅ケアに役立つものであり、実践していきたいと思う」

60 歳代女性（地域住民）

「非常に貴重な講演ばかりであったが、参加者がやや少なく、非常にもったいないと感じた。ポスターを市役所で頂いて参加したが、そのテーマが少し難しく、参加に迷ったが来てみたら非常にわかりやすい内容であり、純粋に面白かった。できたらもう少しわかりやすい、やさしいテーマであったら良かったと思う」

60 歳代男性（高齢者施設管理者）

「非常に勉強になる講演会でした。また、若い先生方の御活躍に安心する思いでした。特に心不全のことに関する講演は、普段は医師や看護師から聴くようなテーマであったが、リハビリの先生からの視点で聞いたことが非常に新鮮でした。是非、第 2 回も期待しています」

40 歳代女性（介護職：経験年数 25 年）

「多くの職種の先生のお話を聞くことができ、非常に面白かった。それだけに、参加者が少ないのはもったいないと思った。職場に持ち帰り、伝えたいと思うが、もう少し早くにお知らせを頂いていたら、同僚も勤務の調整をし、参加したかったと言っていた」

最後に今回、「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」研修会において、ICT を利用した遠隔による講演も行った。ただ、少し会場の環境等の影響でうまくいかない点が見られた。非常に有効なツールでもある上に、いままでにない状況での講演という感想も頂いた。今後、在宅医療推進において ICT ツールは必須であるとも考えられるため、引き続き行っていきたいと思うと同時に多職種での連携においても、今までのような紙ベースや電話といったツールでは、やはりなかなかリアルタイムで関わることができず、また効率的にも難があるように考えられる。そういった意味でも 2025 年の超高齢化社会を前に、また現在の PC やタブレット、スマートフォン等の ICT 機器の普及も考え、今後も継続して行っていきたいと思う。ただ、忘れてはいけないのはあくまでもこのような ICT ツールのみでの介入ではなく、基本は人と人との連携であり、あくまでもこれらを補完するためのものであることであると考えられる。

# 『地域包括ケアを目的とした 在宅医療推進のための 多職種研修会』

Osaka Medical College Faculty of Nursing

-The public interest foundation Yuumi Joint Symposium 2016

この研修会は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています

日時

8月28日 (日)

(12:20-16:20 (予定))

(12:00 開場)

場所

看護学部 講堂 (大阪医科大学 北キャンパス)

## プログラム

司会：横山浩誉 (大阪医科大学看護学部老年看護学 講師)

<はじめに> 12:20~12:25 本日の予定およびシンポジストの紹介

第1部 12:30~13:25 「岡山県新見市における在宅医療推進のための他職種連携について」  
太田 隆正 (一般社団法人 新見医師会 会長 (医師)) ※遠隔にて参加 (TV電話利用)

第2部 13:25~14:00 「認知症患者の在宅医療の問題点」  
木下 彩栄 (京都大学 医学研究科 人間健康科学系専攻 在宅医療看護学分野 教授 (医師))

第3部 14:00~14:40 「在宅医療推進のための心臓リハビリテーションの実践」  
神谷 訓康 (大阪医科大学 医学部 公衆衛生学教室 助教 (理学療法士))  
< 休憩 > (14:40~14:45)

第4部 14:45~15:10 「在宅医療推進のための健康づくりの実践」  
藤本 幸輝 (全米エクササイズ&スポーツトレーナー協会認定パーソナルトレーナー)

第5部 15:10~15:40 「介護支援専門員からみた高槻市における地域包括ケアの実態について」  
迫田 薫 (社会医療法人祐生会グループホームみどりヶ丘荘管理者主任介護支援専門員)

第6部 15:40~16:10 「サルコペニア・フレイルの評価と介入の実践」  
山田 実 (筑波大学 大学院人間総合科学研究科 准教授) ※場合により遠隔にての参加

<おわりに> 16:10~16:20 質疑応答およびまとめと提言  
久保田 正和 (大阪医科大学看護学部老年看護学 准教授) (16:20 終了予定)

当日  
参加可

参加費無料

事前申込不要 (定員300名)

当日は直接会場にお越しください

※定員を超えた場合はお断りする場合がございます

※駐車場がないため公共交通機関をご利用ください

大阪医科大学 看護学部 (老年看護学)

〒569-0095

TEL : 072-683-1221 (内線3078)

(担当：久保田・横山・上山)

大阪府高槻市八丁西町7-6

E-mail : fon122@osaka-med.ac.jp



主催：大阪医科大学看護学部老年看護学領域  
共催：大阪医科大学 公益財団法人 勇美記念財団  
後援：京都大学 高槻市 高槻市社会福祉協議会

この研修会は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています